

【事務事業調査】

事務事業名	町国際交流協会補助			予算科目 コード	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業
					001-10-04-01-002-01-01-0
担当部課	教育部 生涯学習課	担当	生涯学習係	事業の分類	既存事業
		係長	宇塚利和		

■事務事業の概要

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	H23 事後評価 国際化が進んでいる中、海外との交流を促進して相互理解と国際親善に寄与する活動を行う町国際交流協会の運営補助及び、協会が実施する「一般会員海外研修」、「国際交流フェスティバル」、「会員の集い」、「日本語講座」等の事業費を補助しました。	これらの事業を行うことで、町民の国際交流・国際理解・国際親善の力を培うきっかけとなります。また、町内在住外国人に日本語講座や暮らしの情報を提供することで、国際交流や親善を促進する環境を整えることになります。
	H25 事前評価 国際化が進んでいる中、海外や町内在住外国人との交流を促進して、相互理解と国際親善に寄与する活動を行う町国際交流協会の運営補助及び、協会が実施する「一般会員海外研修」、「国際交流フェスティバル」、「会員の集い」、「日本語講座」等の事業費を補助します。	
実績		

■活動指標

指標	目標値	達成値	特記事項
国際交流フェスティバルの開催回数	1回		会員数 個人 75人、 団体 11団体 (平成24年 総会時) 【企画総務部】役員会 広報発行 【事業部】会員の集い 国際交流フェスティバル 【交流部】在住外国人との交流事業 (海外研修 サポート事業) 【研修部】日本語講座 毎週火曜日開催 等

■事業費(計画)

【単位:千円】

細 節	金 額	積 算 根 拠
1 補助金	700	H24年度と同額要求
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
	700	

■事業費(実績)

【単位:千円】

細 節	金 額	特 記 事 項
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
	0	

■事業経費

		計 画 【千円】	実 績 【千円】	特 記 事 項
予 算	当初予算額	700		
	補正予算額			
	流用額			
	予算現額			
決 算	決算額			
財 源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0		
	差引(一般財源)	700		

■補助金等名:町国際交流協会補助金

■補助事業者等:町国際交流協会

★自己評価基準

- (1)とてもよくあてはまる:5点
- (2)あてはまる:4点
- (3)どちらかというにあてはまる:3点
- (4)どちらかというにあてはまらない:1点
- (5)あてはまらない:0点

★総合評価基準

- (1)継続:総得点が35点以上
- (2)見直し:総得点が35点未満

補助金等交付基準		自己評価	評価に関するコメント	
1	公益性	■受益が不特定多数の町民に広く及ぶものであり、特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でない。	5	事業の目的に「町民及び企業等の国際化の推進」を掲げているので、町全体に波及効果が期待できるものと判断します。
		■町全体に波及効果が期待できる。		
2	必要性	■地域経営計画に即し政策的に奨励する事業であり、町民のニーズに即している。	4	地域経営計画の中では、「町民の主体的な活動を支援すること」を明記し、「出かける国際交流から受け入れる国際交流への転換などが課題」としている町の政策に適合するものと判断しています。ただし、行政、住民ともに、上記の理念が十分に意識醸成されないままに運用されている感があります。
		■社会動向を展望し、先見性・発展性がある。	4	
3	公平性	■民間、NPO、ボランティア等、既存団体等の活動を阻害しない。	4	町国際交流協会は、「町民の国際交流・国際理解・国際親善の推進」を目指し、他の団体等と連携しながら活動しています。
		■町民のサービス受益機会が均等である。	3	
4	効果性	■事業効果が明確かつ具体的である。	4	町国際交流協会の成果の一つに、町内在住外国人に対し、日本語講座や暮らしの情報を提供するなど、環境が整えられていることがあげられます。
		■予算の見積が適正である。	3	
5	適格性	■実施体制が明確である。	3	「補助終了後の自主運営」については、団体の期待どおりに行かないという現状にあります。
		■自主・自立の傾向が明白で、将来計画がある。	3	
合計点数		37		
総合評価		継続		